

2012 年度 小委員会活動成果報告

(2013 年 1 月 10 日作成)

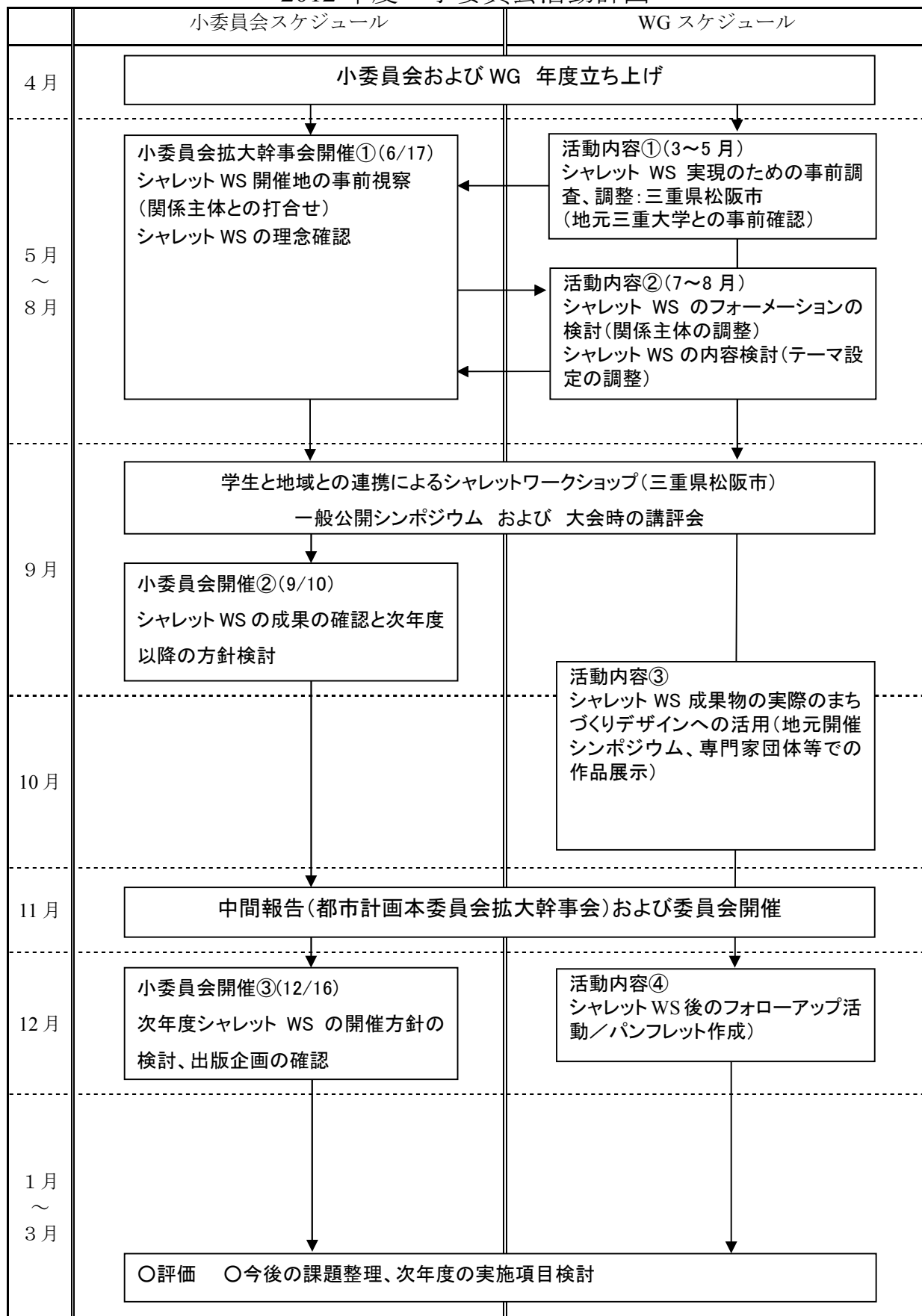
小委員会名	都市計画・デザイン教育小委員会		主 査 名：小林正美 就任年月：2009 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	都市計画本委員会		委員長名：出口敦 主 査 名：
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>2009 年度：都市計画教育とアーバンデザイン教育の連携に関するデータ収集（国内・海外）。連携カリキュラム、実践的カリキュラム、シャレットワークショップの実施（大会時）。前年度のシャレットワークショップ実施地域のフォローアップ教育。</p> <p>2010 年度：都市計画・デザインの資格制度に関する海外の状況・事例の収集。シャレットワークショップの実施（大会時）。前年度のシャレットワークショップ実施地域のフォローアップ教育。</p> <p>2011 年度：研究協議会実施。都市計画・デザインの資格制度に関する国内の様々な立場の関係者からのヒアリング・公開討論など。シャレットワークショップの実施（大会時）。前年度のシャレットワークショップ実施地域のフォローアップ教育。</p> <p>2012 年度：活動成果の出版企画。シャレットワークショップの実施（大会時）。前年度のシャレットワークショップ実施地域のフォローアップ教育。</p>		
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：有</p> <p>小林正美（明治大学）、野澤康（工学院大学）、鶴心治（山口大学）、根上彰生（日本大学）、野嶋慎二（福井大学）、出口敦（九州大学）、北原啓司（弘前大学）、瀬戸口剛（北海道大学）、高橋潤（明治大学）、岡絵理子（関西大学）、高鍋剛（都市環境研究所）、遠藤新（工学院大学）、有田智一（筑波大学）</p>		
設置 WG (WG 名：目的)	<p>シャレットワークショップWG： 都市の計画理論と空間デザイン論を並行して展開し、実際の地域の課題に応用して考察し、解決策を提案する教育方法は当該の学生教育に加え、地域の担い手の育成にとっても有効である。これまでの教育カリキュラム体系の検討成果をもとに、シャレットワークショップを毎年全国各地で開催することにより、都市計画・デザインの教育方法に関する新しい知見を蓄積し、具体的な教育方法について研究を行う。</p>		
2012 年度予算	267,500 円	<p>ホームページ公開の有無：有り 委員会 HP アドレス：http://news-sv.ajj.or.jp/toshi/s3</p>	

項 目	自己評価
委員会開催数	委員会 3 回（2012/6/17、9/10、12/6） 拡大幹事会 1 回（2012/6/17）
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	1. 準備中（都市計画本委員会です承いただき、刊行委員会へ） →2015 年度を出版予定として執筆段階
講習会	1. 学生と地域との連携によるシャレットワークショップ —松阪のまちづくりデザインを考える— (20120905-09) 参加者数 学生 23 名 教員 15 名

<p>催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)</p>	<p>1. シンポジウム「松阪のまちづくりデザインを考える」(2012/09/09) 参加者数 70名</p>
<p>大会研究集会</p>	<p>1. 日本建築学会学術講演会公開講評会： 学生と地域との連携によるシャレットワークショップ —松阪のまちづくりデザインを考える—講評会 (2012/09/13) 参加者数 40名</p>
<p>対外的意見表明・パブリックコメント等</p>	<p>1. 松阪におけるシャレットワークショップの成果が下記のメディアで紹介された 夕刊三重、中日新聞、ケーブルテレビ松阪、アイウェーブ松阪</p>
<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>1. アーバンデザイン教育の普及・啓発に関して、具体的方策の検討を継続した。 2. シャレットワークショップについては、例年と同等かそれ以上の成果を収めることができた。 3. 出版企画は執筆作業を進めてきたが、再度執筆作業を仕切り直した。脱稿予定 2013 年 7 月、刊行予定 2015 年 4 月としている。</p>
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<p>1. 地域に分かれた委員構成であるため、予算上、委員会の頻繁な開催が難しい。 2. 未だにシャレットワークショップへの教員参加は各々個人の研究費負担に依存している状況である。学会全体としての予算化の検討が期待される。 3. 都市計画・デザイン教育と一級建築士資格等との関係を議論すべきとの意見があるが、現状では時間的・人的な余裕がない状況にある。</p>

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

2012 年度 小委員会活動計画



※必要に応じて適宜、行や欄を追加して下さい。

2012 年度 WG 活動計画および自己評価

(2013 年 1 月 10 日作成)

WG 名	シャレットワークショップ WG	主 査 名：高橋 潤 就任年月：2009 年 4 月
所属小委員会	都市計画・デザイン教育小委員会	主 査 名：小林 正美
設 置 期 間	2011 年 4 月～2013 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2011 年度 宮城県石巻市におけるシャレットワークショップ[°] の内容検討と準備 ・ 2012 年度 三重県松阪市におけるシャレットワークショップ[°] の内容検討と準備 	
WG 構成 (氏名 (所属))	委員公募の有無：無 高橋潤 (明治大学)、小林剛士 (山口大学)、高鍋剛 (都市環境研究所)、出町慎 (関西大学)、三輪律江 (横浜市立大学)、泉山墨威 (NPO 法人まちづくりデザインサポート)	

WG 活動自己評価

項 目	自己評価	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	4 段階評価 ^{※2} B	
	シャレットワークショップは通算 8 回目を重ね、着実に教育効果および実際の都市計画への反映が成果となって表れている。運営手法においては、知見の蓄積により、応用や汎用性を獲得してきており、ほぼ目標に達したといえる。これらの中間的総括のためのシャレットワークショップに関する刊行の実施も小委員会にてスケジュール化され、シンポジウムの開催も検討を行っている。	
WG 開催数	当初予定 4 回	開催数 4 回
WG 参加状況	1. 6 月 17 日 2 人	2. 9 月 10 日 4 人 3. 9 月 13 日 4 人 4. 12 月 6 日 2 人
成果	9 月に三重県松阪市においてシャレットワークショップを開催した。開催前には、事前調整 (現地調査、地域住民、行政へのヒアリング、資料収集と整理および配布)、内容検討 (テーマ設定とその教育効果の検討) を行い、また、開催後にはシャレットワークショップの成果を実際のまちづくりデザインに反映するフォローアップを行っている。現実的地域課題に則した実践教育プログラムとしてシャレットワークショップを実施できたことは、(様々な協力者の尽力の上であるが) このプログラムが応用的展開も可能な段階に来ていることを示しており、知見の蓄積の成果と言える。また、一昨年度の開催地である青森県黒石市とは今年度も継続的関係を築き、小委員会・WG メンバーによるまちづくりデザインへのアドバイスと、人材育成面での貢献が続いている。	
WG 活動の問題点・課題	1. 小委員会同様、地域に分かれたメンバー構成であり、予算の無いなかでの WG の開催は、シャレットワークショップ対象地の事前調査や同ワークショップ開催時 (大会時) に限られている。 2. 運営面での知見の蓄積が、メンバー個々の個人的蓄積に留まる懸念がある。汎用的展開や共有のためのアウトプットが必要であり、委員会の出版企画に合せた検討が望まれる。	

※ WG 活動計画および自己評価は本書式を基本とする。ただし、それぞれの WG において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

※2 A 評価：WG 設置目標に対し、80%以上の達成度、B 評価：WG 設置目標に対し、70%から 80%の達成度、C 評価：WG 設置目標に対し、60%から 70%の達成度、D 評価：WG 設置目標に対し、60%以下の達成